



WORLDWIDE

淫獄のリング

まんが5P+CG15枚(差分2枚含む)
+文字無し、コスチューム無し
+おまけ



そのやまみき
園山美紀
(パンサーミキ)



有明女子プロレス本社
(3F貸オフィス)

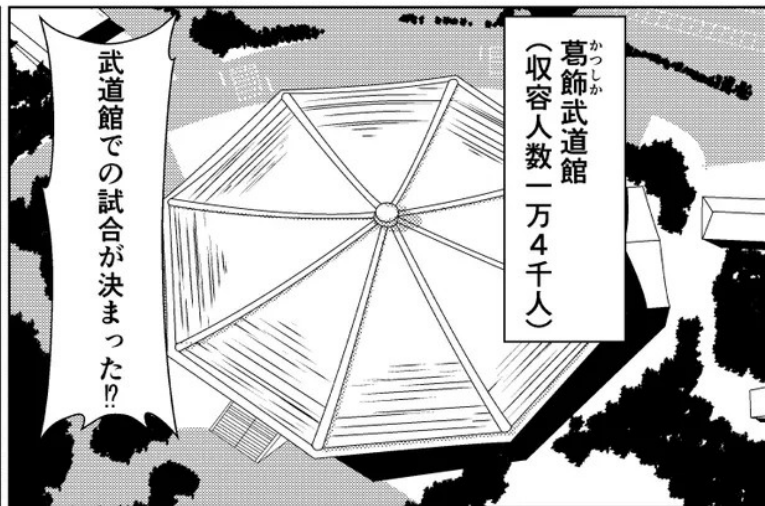


社長

いや、それはだね…

うーん

ウチのどこにそんな
余裕があんのよ！
じゃあ給料あげろ！



葛飾武道館
(収容人数一万4千人)

武道館での試合が決まった！



くにきだ まなみ
國木田愛美
(MANAMI)

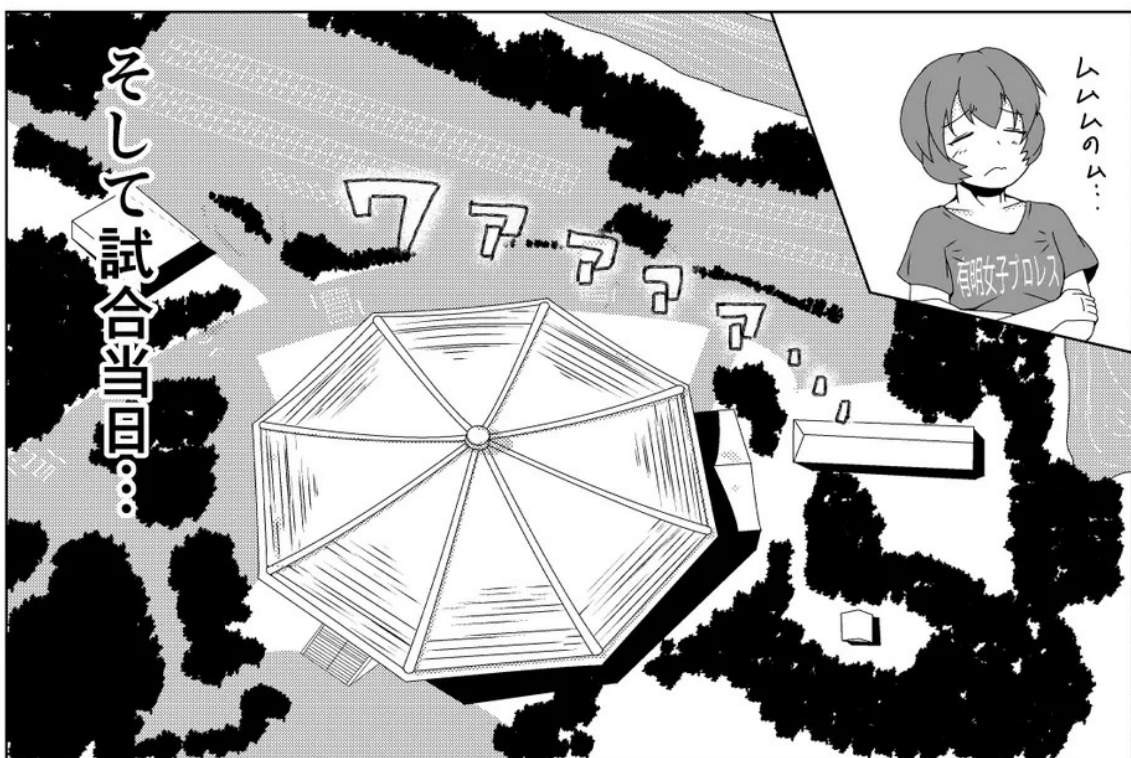
実は
テレビ局から提案が
あってね！

ウチの花形、
パンサーミキと

男性人気の高い
MANAMIを
メイン試合に
する条件で、

武道館興業の
スポンサーになっ
てくれたんだよ

もちろんTV放映も
予定している！







不意打ち気味にソバットを決める。
打点の高い私のソバットに
観客は沸いた。

今度はマナミのラリアットが
私に突き刺さる。

しゃあ

そこいらの重量級レスラートに
負けないくらいの衝撃があった。
彼女なりに今日のために
トレーニングしたのだろうか...



マナミの頭を抱えて打ち付ける、私の得意技、ダイヤモンドカッターだ。派手にリングを揺らすと、観客も大きく沸いた。

せーあー!!

一つ技をだすと、一つ返される。意外にも私も熱くなる展開だ。でも、普通の好試合では今回は不十分なのだ。そろそろ実行しなきゃ……!



肩紐を強く引っ張ると、コスチュームごと破れてしまった。
思った以上に安い素材だったようだ。
大きな胸が弾けるように踊った。

突然の出来事にマナミは躊躇る。

まあ、ニップレスをしてるし、この娘のポロリはたびたび発生している。
あとで謝れば許してくれるだろう…



リング下のマットに社長に仕込ませておいた
凶器を回収する。
鉄パイプみたいなものを頼んだが、
あったのは双頭デイルドだった。

んぐ

んぐ

グググ

オラッ!
啜えろ!!

私もヤケになっていた。
思ったよりしなるので、マナミを何度も叩き、
ロープ際に寄せて先を啜えさせた。

その瞬間、
カメラのフラッシュが激しく瞬いた。



マナミは色々なショックからか、
もはや試合をする気力は無さそうだった。
コスチュームは破れ、ニッププレスも
取れてしまった姿は流石に居た堪れ^{たま}ない。

もう試合は終わらせるべきだろう。
私はマナミをリング中央に引きずると
手を掲げ、フィニッシュを宣言した。

これで
決めるぜー！！



フォールしようとした瞬間、
すごい力で体が持ち上げられた。
反射的に私が飛び上がったもの
もあるが、体が空中で綺麗な弧を
描くようだった。



マナミはその姿で
まだ試合を続けたいのだろうか？
それとも一発逆転のフォールを？

一瞬のうちに色々な考えが廻ったが、
それもマットに叩きつけられるまでだった。

頭を打ち付けられた衝撃で
朦朧もうろうとして、
マナミが私に覆い被おおさってきた。
フオールを取られるかと思い、
払いのけようとする、
彼女は両手で私の頭を押さえつけた。

急に私の唇くちびるに唇を重ねてきた。
キスとか生優しいものではなく、
激しく吸い付いて、放はなそうとしない。



啞然^{あぜん}としている私に、マナミは舌を絡^{から}ませてくる。頭の中には彼女の舌が私の舌を激しく舐^ねる音だけが響いた。



会場の騒めきはなにも聞こえなかった。
マナミの突然のディープキスに、
私はただされるがままだった。

マナミを振り払うと、
なんとかロープ際まで這いずって、
逃れようとした。
彼女が何をしたいのかわからない、
変な風にキレてしまっている。

ミキちゃん♡

ウフフ

スル

スル

ちと!!
何てんのよ!!

マナミは私のショートパンツを
笑いながら降り降ろしていた。
脚に力が入らずうまく抵抗できない。
このままじゃ本当にヤバイ感じがした。

ザワ...

マナミは私が凶器に使ったデイルドを
力いっぱい打ち付けてくる。
もはや行動の意味がわからない。

ベビーフュエイスの暴走に
歓声が大きく鳴り響いていた。



マナミの舌が、指が全身を愛撫あいぶするように体を這はいまわる。次第に快感の波が押し寄せて、もうどうなってもいいと思ってしまう。

カメラのフラッシュが炊かれるたびに、自分が痴態を晒しているのだと気付かされる。マナミの荒い呼吸が、首元に当たるのがくすくすだった。



マナミが私に
で繋がった。

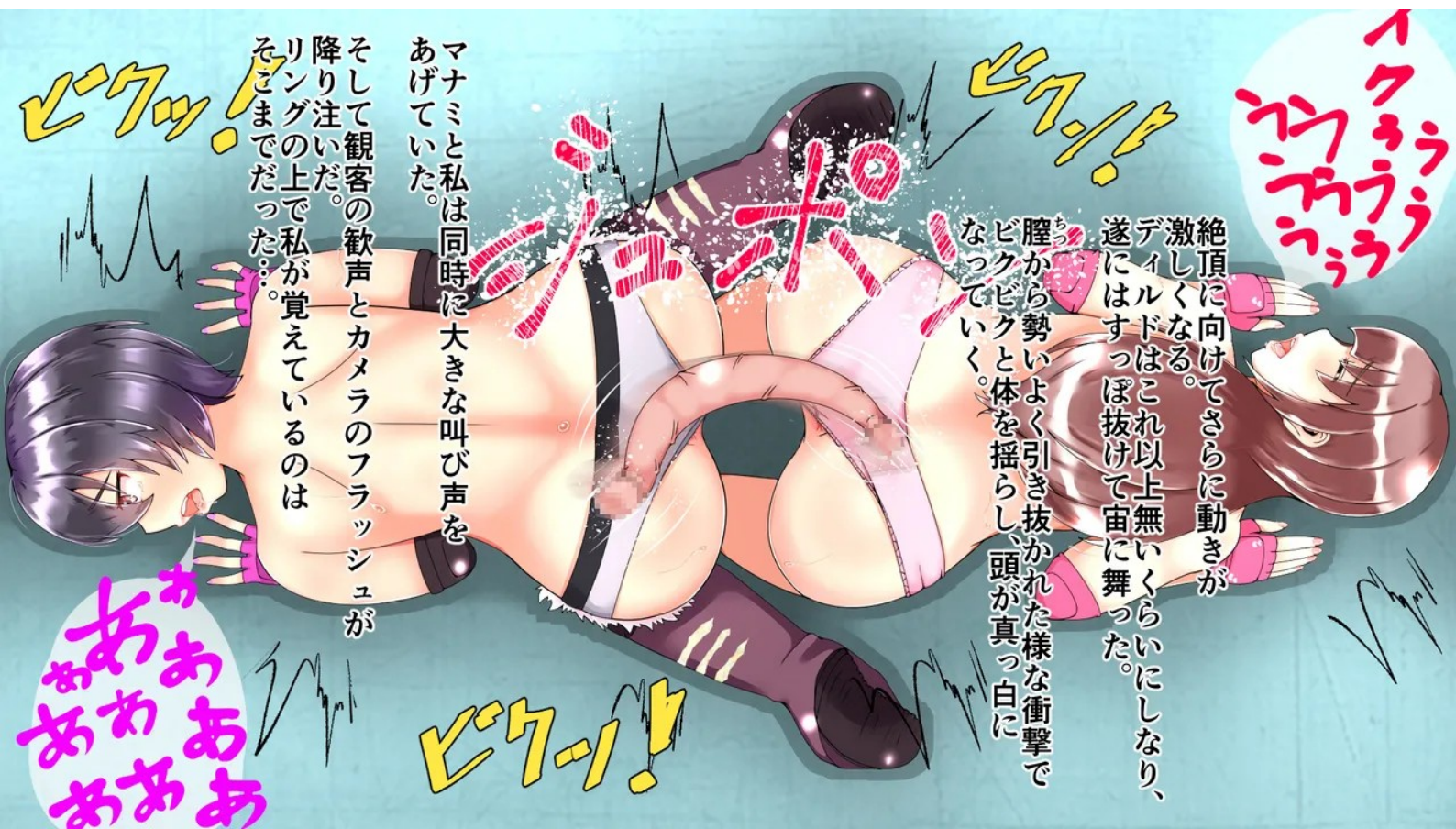
まるで男性が、上からピストンをするかのように腰を振っている。

なせ、こんな公開セックスショーを
しているのだろう。
私が彼女を狂わせてしまった罰だど
いうのだろうか。

私もマナミも四つん這いになり
激しくお尻をぶつけ合っている。
もはやただ快感をむさぼり合うだけの
雌の獣になってしまった。

二人をつなぐデイルドが
激しくうねって生き物のように
形を変えている。
お尻をぶつけるたびに
膣の中をかき回していた。





イクッ！
イクッ！
イクッ！
イクッ！

絶頂に向けてさらに動きが
激しくなる。
デイルドはこれ以上無いくらいにしなり、
遂にはすっぽ抜けて宙に舞った。
膺^{うち}から勢いよく引き抜かれた様な衝撃で
ビクビクと体を揺らし、頭が真っ白に
なっていく。

マナミと私は同時に大きな叫び声を
あげていた。

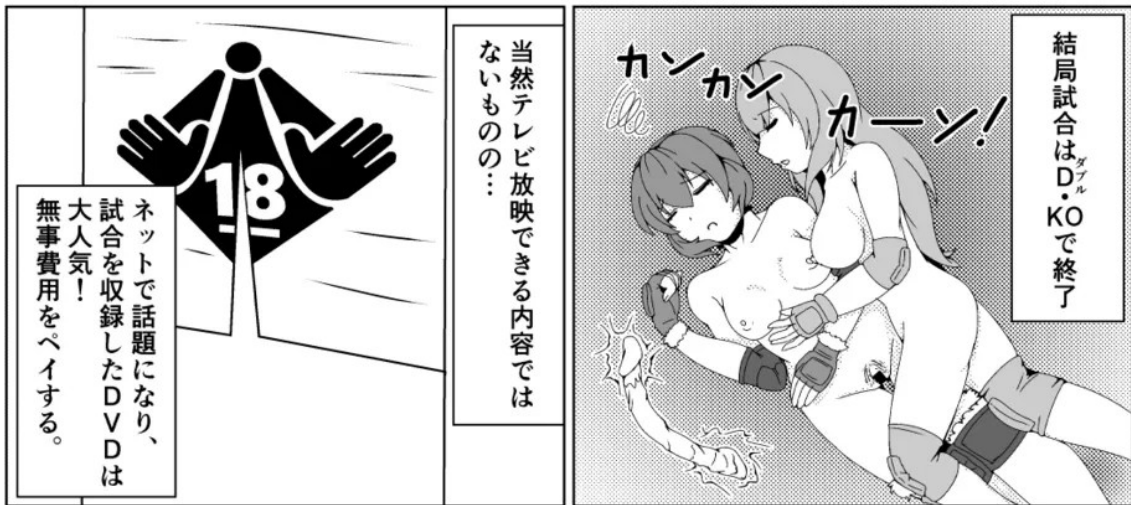
そして観客の歓声とカメラのフラッシュが
降り注いだ。
リングの上で私が覚えているのは
そこまでだった。

ビクッ！

ビクッ！

ビクッ！

ああああ
ああああ
ああああ





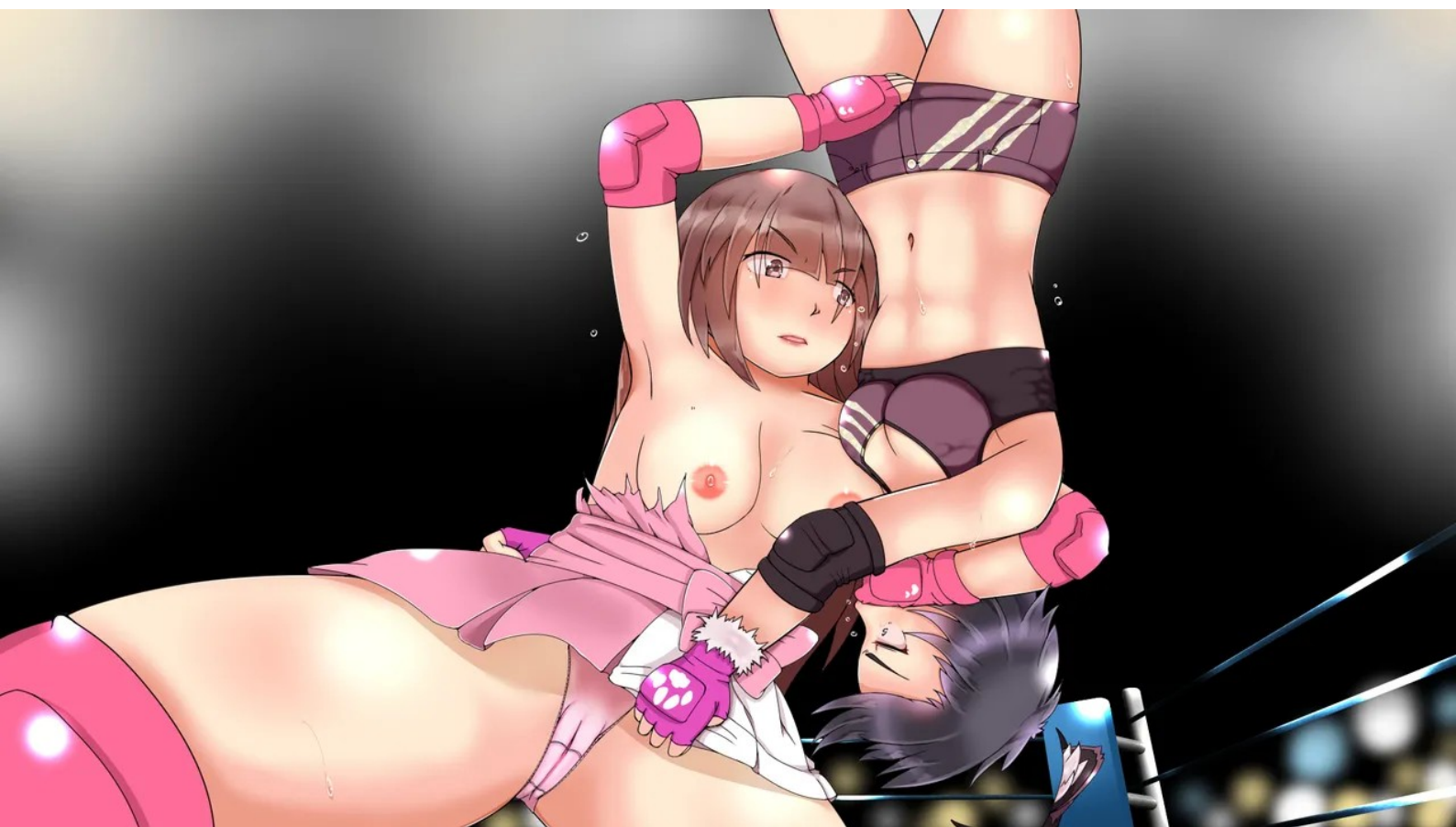












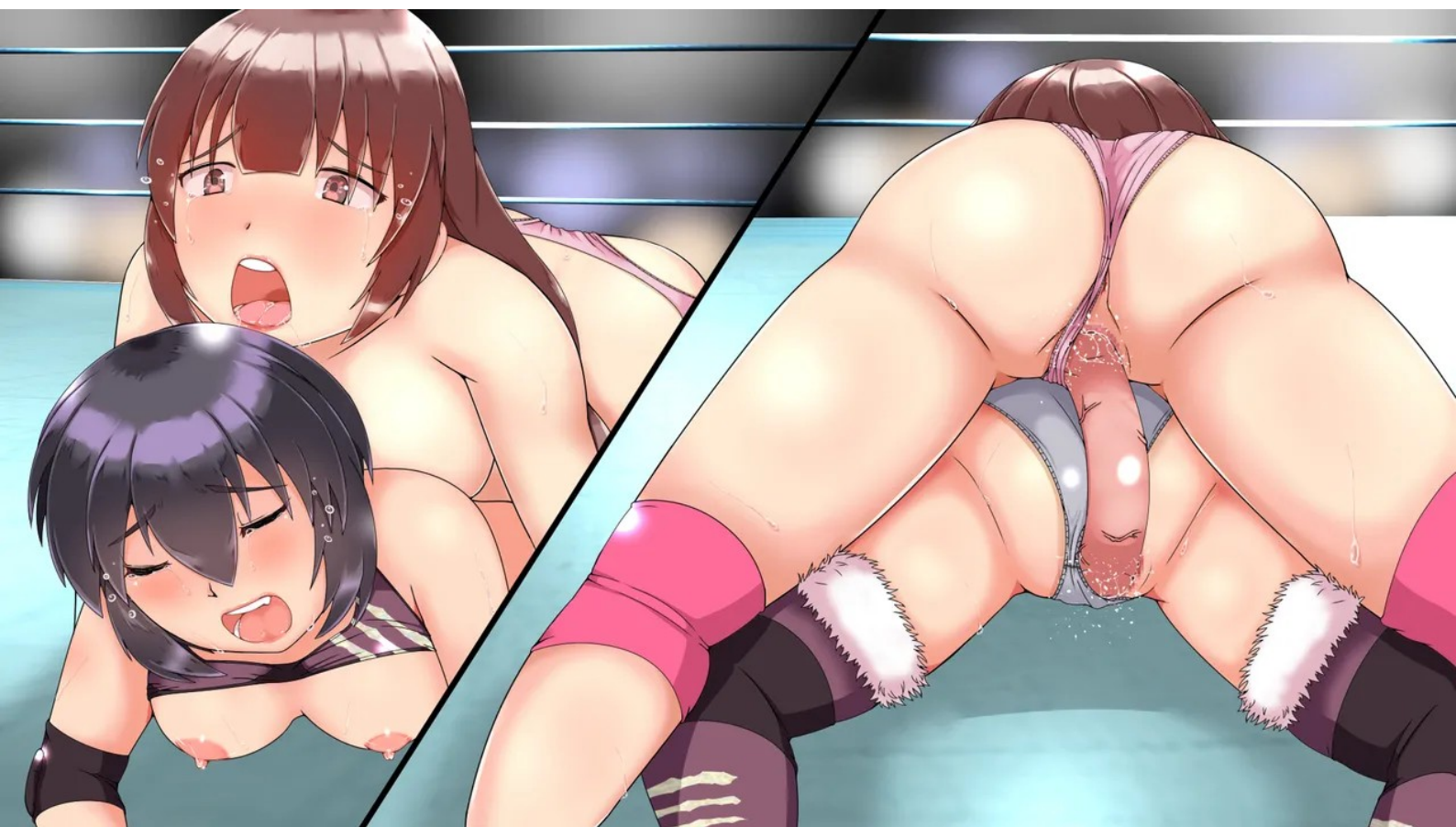


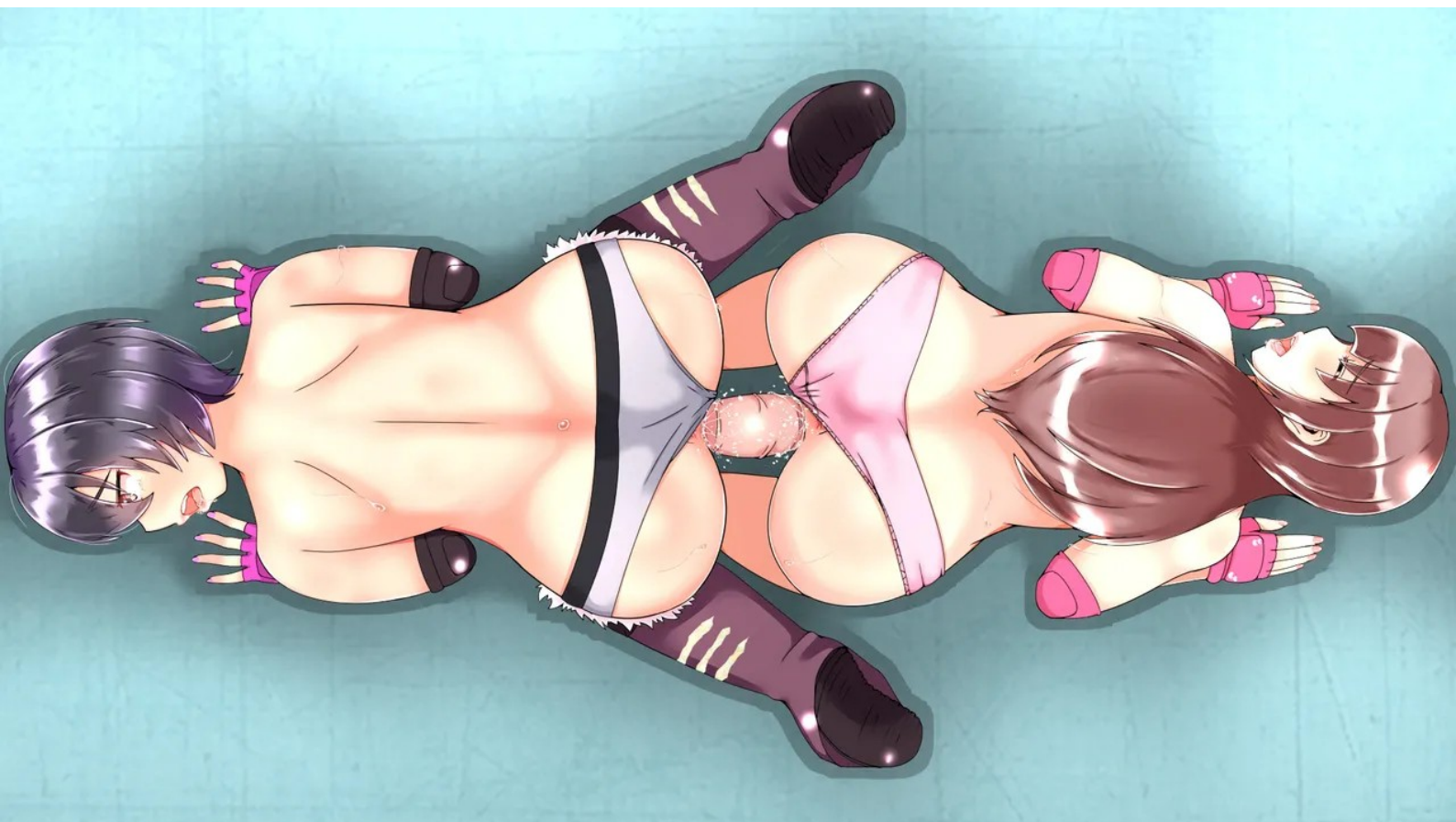


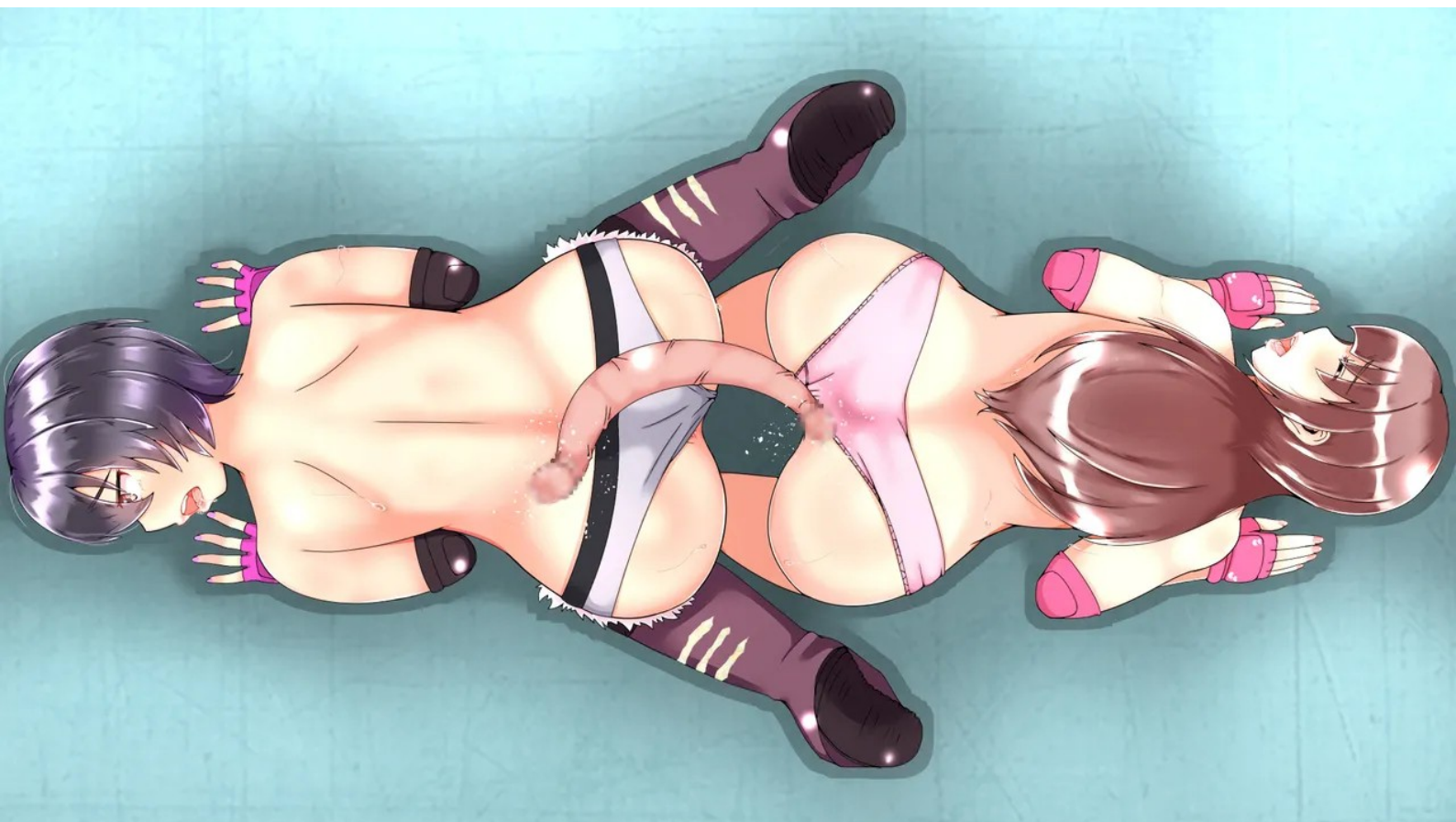




























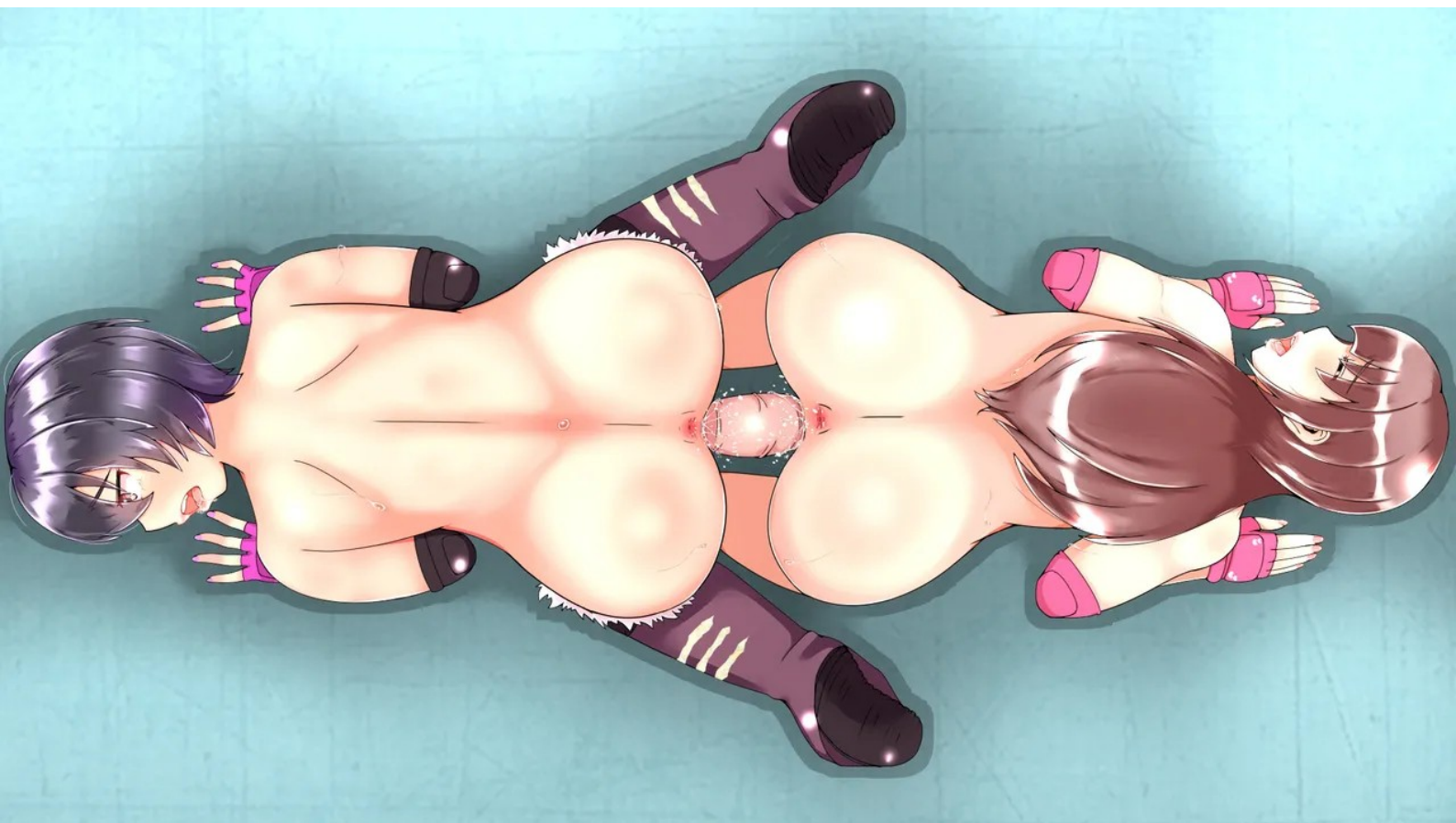


















そのだみき

園田美紀 (パンサーミキ)

大手プロレス団体に研修生として入団していたが、粗暴な性格で問題行動が多く、すぐ破門になる。そこを有明女子プロレスに拾われる形で入団した。

社長の寛大な育成方針でなんとか一人前のレスラーになり、持ち前の身体能力の高さを活かした華麗なプロレスで人気を博し、団体の看板的存在になる。

過去の自分を反省してか、現在は後輩の指導も務め人望も厚い。

そんな彼女があんな試合をするハメになったのは、ひとえに責任感の強さかもしれない…



くにきだまなみ
國木田愛美 (MANAMI)

パンサーミキの同期。
豊満なバストで男性人気の高いお色気レスラー

プロレス好きが高じて入団したものの、
なかなか芽が出ず、ミキに憧れながら苦悩の日々を過ごす。

ヒールに虐められながら、セクシー喘ぎ声をだす試合運びが定番
となり、熱心な男性ファンのファンクラブも出来るほどに
人気となった。

しかし、彼女自身は真剣に試合に取り組んでおり、
世間の求めるものと開きがあることには気づいていない。

モテそうな見た目とは裏腹に、プライベートでは男性の影が
まったくないので、色々怪しむ声もチラホラあるらしい。

